

徳島県に漂着したヒメモダマ *Entada phaseoloides* (L.) Merr. (ネムノキ科) の発芽試験

茨木 靖

[Yasushi Ibaragi : A germination test of *Entada phaseoloides* (L.) Merr. (Mimosaceae) drifted to Tokushima Prefecture, Japan]

キーワード：ビーチコーミング，漂着物，マメ

徳島県海陽町に漂着したヒメモダマ *Entada phaseoloides* (L.) Merr. が発芽したので、記録にとどめたい。本県に漂着した南方系の種子を人為的に発芽させた記録はこれまでにない。また、日本国内で漂着種子を発芽させた、または、発芽していたものを栽培した記録もごくわずかであり(久保田, 2004; 盛口ら, 2007), 日本本土に漂着したヒメモダマを発芽させた公式の記録は無い。

ヒメモダマは、日本の沖縄県以南を含む熱帯・亜熱帯アジアと太平洋諸島および北東オーストラリアに生育するネムノキ科のツル性木本植物で、種子を海流によって散布する海流散布植物であることが知られている(中西, 1994; 石井, 1999; Tateishi et al., 2008)。ヒメモダマは、近縁なモダマ *Entada tonkinensis* Gagnep. と並んで、直径 5cm にも及ぶ大型の種子を散布体とし、海岸に漂着したときに目立つことから、江戸時代の文献などにもすでに漂着の記録がある(石井, 1999)。また、本種の種子は、漂着物研究者や愛好家にとって注目度の高いものであ

り、積極的に収集されるため、本県でも複数の採集記録がある(茨木, 2003)。

今回発芽を試みた種子は、2009年に海陽町宍喰大手海岸に漂着していたものである。発見当時は、トグロコウイカなど南方系の漂着物が付近に散見され、この種子も黒潮によって南方から運ばれてきたものであることが窺える。

種子は、発芽試験まで常温で3年ほど保管していたが、試験に先立ち99%アルコールで全体を消毒した後、胚の部分避けやすりで傷をつけ、常温の水道水に漬けた。その後、室温(25℃程度)で保管し、外光の当たる室内で観察を行った。給水後の経過は表1のとおりである。吸水後、発芽(図1)まではおよそ一ヶ月、発根(図2)まででも20日以上要しているのがわかる。

マメ科やネムノキ科植物の種子は、比較的長期間発芽能力を維持することが知られており、ヒメモダマに関しても、1年以上海水中に放置していたものが発芽したと



図1 発芽の様子 (2012年7月25日撮影)



図2 発根の様子 (2012年7月17日撮影)

2012年12月7日受付, 12月28日受理。

徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-cho, Tokushima 770-8070, Japan

表 1. ヒメモダマの吸水後の変化

日付	種子の状況
6月26日	種皮に傷をつけて吸水。種子は水に浮いている。
6月28日	傷をつけた部分の付近が瘤状に膨らむ。
7月6日	種子全体が膨らむ。
7月7日	種子が完全に水に沈む。恒温器(27℃)に入れる。照明無。
7月10日	臍の部分から種皮に亀裂が入る。
7月11日	水から出し、湿らせた濾紙上に置く。
7月17日	発根
7月18日	側根が伸張する。主根は5cm長程度。
7月25日	発芽

いう記録がある(中西 1994)。今回の発芽試験でも、徳島県に漂着する南方系種子に、十分な発芽能力があることが確認された。その後、本試験で発芽したヒメモダマは、順調に成長し、9月12日現在で長さ125cmほど、葉も3.5cmほどに展開している。

前述したように、日本本土に漂着した南方系種子の発芽の試みは、あまり知られていないが、沖縄県に漂着したトビカズラ属 *Mucuna* の種子では、発芽後開花・結実に到った報告もある(盛口ら, 2007)。多くの漂着種子は、種子の外部形態的特徴から得られる、限られた情報に基づいて同定されている。このため、種の同定に不確実な要素が出てくることも否めない。徳島県では、モダマ属以外にもマメ科トビカズラ属やジャケツイバラ科ジャケツイバラ属 *Caesalpinia* などの海流散布種子の漂着が知られているが、種子形態から仮称されている物が多く、種までの同定を正確にするためには、今回の例のように種子を発芽させ、植物体自体を観察することが重要と思われる。また、漂着種子の発芽能力を確認することは、南方由来の海流散布植物の潜在的な分布拡大の可能性についての情報を得る上でも重要であろう。

標本：徳島県海部郡海陽町穴喰大手海岸 Shishikui, Kaiyoh City, Tokushima Pref., Shikoku, Japan. (Y. Ibaragi 300809001, 30 Aug. 2009, TKPM-BSP079383)；徳島県徳島市八万町徳島県立博物館(栽培) Cultivated. Seedling has grown from the seed of Y. Ibaragi 300809001, at Tokushima Prefectural Museum, Tokushima City, Tokushima Pref., Shikoku, Japan. (Y. Ibaragi 300809001-1, specimen prepared 13 Nov. 2012, TKPM-BSP 079086).

本研究にあたり、美波町の濱直大氏には、漂着種子についての貴重な情報をいただいた。ここに記して謝意を表します。

引用文献

- 茨木 靖. 2003. 徳島県の漂着種子と果実. 漂着物学会会報. (6) : 1-4.
- 石井 忠. 1999. 新編漂着物事典. 380p. 海鳥社, 福岡.
- 久保田伸・岡村親一郎・湊 宏・中西弘樹. 2004. 和歌山県田辺湾周辺海域に最近漂着したモダマ(マメ科)の種子. 漂着物学会会報(9) : 2.
- 盛口 満・佐藤寛之・宮城竹茂. 2007. 屋那覇島(沖縄諸島)から採集された漂着種子: マメ科トビカズラ属の一種(*Mucuna sp.*)の開花, 結実の報告. 漂着物学会誌 5 : 52-53.
- 中西弘樹. 1994. 種子はひろがる種子散布の生態学. 255 pp. 平凡社, 東京.
- Tateishi Y, Wakita, N and Kajita T. 2008. Taxonomic revision of the genus *Entada* (Leguminosae) in the Ryukyu Islands, Japan. Acta Phytotax. Geobot. 59(3) : 194-210.